

65 徳川家茂とナポレオン三世 (2021年6月15日)

フォンテーヌブロー城で、1860年代前半に江戸幕府の第十四代将軍の徳川家茂がナポレオン三世に贈呈した品々の展覧会が開催されています(9月20日まで)。掛軸、屏風、漆などで作られた工芸品が展示されています。これらの品々は、フォンテーヌブロー城に保存されていたものですが、日仏の共同研究によって、最近になって家茂からナポレオン三世への贈呈品であったことが判明しました。なぜ、家茂はナポレオン三世に贈り物をしたのでしょうか。



TOKUGAWA Iemochi
徳川家茂 (1846-1866)



Napoléon III / ナポレオン三世
(1808-1873)



"Réception solennelle des ambassadeurs japonais, le dimanche 13 avril", *Le Monde illustré*, 19 avril 1862, Bibliothèque nationale de France
「ナポレオン三世に謁見する使節団」 1862年

1858年に日仏修好通商条約が締結され、日本とフランスは正式に交易を開始することになりました。しかし、日本ではヨーロッパ諸国との交易に反対する勢力が強く、実際に交易を始められる状況にありませんでした。そこで、江戸幕府は、交易の開始を遅らせることを申し入れるために、1862年にヨーロッパに初めて使節団を派遣しました。使節団の一行は、フランスではナポレオン三世に謁見しました。フォンテーヌブロー城が所蔵する家茂からの贈

呈品の多くは、この時に使節団がもたらしたものです。



パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

家茂とナポレオン三世の関係は、この後も続きます。当時のフランスは、生糸によるファッション産業を第一の輸出産業としていましたが、19世紀後半に蚕の伝染病が蔓延し、ヨーロッパ全土で蚕が全滅しました。ナポレオン三世は、第二代駐日公使であったロッシュ全権公使（<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100158773.pdf>）を日本へ派遣しました。1865年、ロッシュから説明を聞いた家茂は、ヨーロッパの窮状を救うために蚕の輸出禁止を解き、ナポレオン三世宛てに一万五千箱の蚕卵紙を贈ることを決めました。二回に分けて、計三万箱が贈られました。ナポレオン三世は、蚕の返礼品として25頭の馬を家茂に送り、1867年に日本に到着しました。しかし、その前年に20歳の若さでこの世を去った家茂は、それらの馬を目にすることはできませんでした。

フランスは、日本の蚕のおかげで養蚕業が再興し、ファッション産業で飛躍的に発展して経済的に大国となりました。一方、日本は蚕の輸出と引き換えに、フランスから派遣された軍事顧問団と、横須賀製鉄所（<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100178775.pdf>）や富岡製糸場（<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100192332.pdf>）の技術者によって、近代化を推し進めることとなりました。

家茂とナポレオン三世によって始まった日本とフランスの160年以上に及ぶ外交関係の歴史は、現代に受け継がれています。そして、両国の関係は今も深化して発展しています。

「フォンテーヌブロー城の日本の品々アートと外交」展 於：フォンテーヌブロー城
<https://www.chateaufontainebleau.fr/oeuvres-japonaises-du-chateau-de-fontainebleau-art-et-diplomatie/> （仏語のみ）